

高校生へ
私が選んだ
1冊の本

人類進化の700万年
書き換えられる「ヒトの起源」

三井 誠 著
講談社現代新書

「人類は本当に猿人が進化したものなのか」

これは私が以前から不思議に思っていたことです。中学のとき初めて社会で類人猿というものを知りました。今の姿が当たり前と思っていた私にとって、体が大量の毛で覆われた猿のようなものが私たちの祖先であるということはとても大きな衝撃でした。その時から私は、猿人がどのように姿を変えてきたのかについて興味を持つようになったのです。

様々な進化の仮説を読む中で、私が興味深いと思ったのは、肉食が脳を大きくしたということです。肉は、果実や葉に比べて多くのエネルギーを得ることができます。だから肉を食べることによって大きな脳を維持することができるようになったという説です。確かに、狩猟によって食料を得ていたなら、肉が主な栄養源なのでそれによって脳が大きくなったといえると思います。

この本を読んで驚いたことは、チンパンジーと人間のDNAの塩基配列の違いが1%あまりであるのに、約8割の遺伝子に働きの違いがあるかもしれないということです。ほんのわずかなDNAの塩基配列の違いが種を決定する大きな違いになることが理解できました。ヒトがこの世に生まれてきたのは奇跡に近いことだと考えられます。

また、現生人類が誕生した頃から芸術やおしゃれがあったということにも驚かされました。正直なところ、その時代の人類は手先がそれほど器用ではないと思っていました。しかし、発見された像や彫刻は精巧な技術が使われ、創造性があった

ということから、この時が芸術の原点であり芸術とは人類とともに進化してきたものなのかなと思いました。そして、貝殻でできたネックレスを身につけていたり、化粧をしていたりしたかもしれないということから、やはりきれいになりたいという女性の感情はどんな時代も変わらないという意外な共通点を見つけることができました。

また、この本を読んで疑問に思ったのは、現生人類がどのようにして言語を得たのかということです。コミュニケーションというものはどの時代にもあり、人類以外の生物にも欠かせないものでしょう。またその形は、その時代や性質によって異なると思います。しかし、どうやってその形を聞く・話すというものに変えていったのでしょうか。私は、これは様々な技術を身につけていく中で知能が発達し、そのようにして生まれた『言葉』を現生人類も使うようになったのかもしれないと思いました。また、私は現生人類の様々な面での発達により、より細かい意思の疎通が必要になってきたことが原因で、今私たちが使っている文法や抽象的概念のある複雑な言語を使用する必要性を感じてきたのだと思いました。

人類の進化は、様々な謎に包まれ、日々の発見により新しい説が生まれたり、今までの説が否定されたりしているといえます。今の時代に生きている私たちが当時の様子を正しく表すということは難しいことだと思います。しかし、私たち人類が歩んできた道のりを様々な仮説を立て明らかにしていくことは、何が描かれているか分からないパズルを少しずつはめ込んでいき完成させるようなものです。つまり、すべての謎を解き明かすことでやっと今の私たちの姿が明らかになるのではないのでしょうか。

今後とも自然科学や計測技術等の発達に伴い、我々人類の起源やその進化の過程について、様々なことが解明されていくことでしょう。私たちはこれらを解明していく中で未来の人類の生き方・あり方を探ることができると思います。

(愛媛県立松山南高等学校 1年 坪内 梨香)

通巻第62号
2007年10月1日 印刷
2007年10月5日 発行

©編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根正幸

定価 210円(本体200円)

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>